ピレリ・スーパー耐久シリーズ 2018
第 3 戦　富士 SUPER TEC 24 時間レース

東　徹次郎
TOHJIRO　AZUMA

50 年ぶりの開催となった富士での 24 時間レース！！

完走は果たすもトラブルに苦しみ、悔しい結果に！！

・開催サーキット：富士スピードウェイ（4.563km）

・レース時間：24 時間

・チーム：T’s concept

・マシン：T’s concept 86 (TOYOTA86)

・カーナンバー：＃28

・クラス：ST-4

・ドライバー：A 東　徹次郎　　B DAISUKE　　C 久保　隆

D 河野　駿佑　　E 森山　鉄也　　F 片岡　龍也

公式予選（6 月 1 日）

◆Weather：曇り　◆Course：ドライ

　前日の練習では雨がぱらつくこともありましたが、完全ドライで迎えた予選。
今回の予選も 29 号車に合わせてコースインしました。
雨上がりなので路面はこれから予選毎に良くなっていきそうな感じでした。
　計測 1 周目はタイヤに熱を入れていき、2 周目にアタックへ。
開幕戦の鈴鹿では前の車両に近づき過ぎて逆にアクセルを少し戻してタイムロスになってしまったので、警戒して最終コーナーを抜けたら、逆に間隔を少し開けすぎてしまいスリップストリームを有効に使えませんでした。
最初のアタックは 59 秒２、このまま 2 回目のアタックに連続で入ります。
　自分の手応え的にもこのラップがタイヤのパフォーマンスは完全にピークに来ていました。
セクター1、セクター２と前にも追い付いていましたし確実にベストタイムで通過出来ているのがわかっていました。
しかし、ヘアピンを抜けて 300R を抜けると、ST-5 クラスのマシンがたくさん前方に見えました・・・。
このまま行くと確実にダンロップコーナーで引っかかってしまいます。
しかしベストで来ているので緩めるわけにもいかないと思い、そのまま行きます。
ST-5 クラスのマシンは進路を開けて譲ってくれたので安心して行けると思った矢先、29 号車の前でアタックしていた 86 号車がダンロップコーナーでオーバーラン。
その真後ろにいた 29 号車も挙動を乱し、更にその直後にいた自分は 29 号車を交わすことで 1 秒近くタイムロスをしてしまい、ベストも更新出来ずこの周 59 秒４。
　結局その後はタイヤ的にもタイムアップ出来ず、自分の位置取りとタイミングのミスで、悔しい A ドライバー予選にしてしまいました。

予選結果：9 位　3’59.459（A・B 合算タイム）

A：1’59.235（８位）　B:2’00.224（11 位）

決勝（6 月 2&3 日）

◆Weather：曇り　◆Course：ドライ

　完全ドライのコンディションの中、土曜の 15 時に 24 時間レースがスタートとなります。
28 号車はいつも通り DAISUKE 選手がスタートを担当。
森山選手、久保選手、河野選手と繋いで、自分の最初の出番は 22 時頃の予定です。
DAISUKE 選手はスタートで一旦ポジションを落とすも、そこから良いペースで徐々にポジションを上げていきます。
そして交代した森山選手も素晴らしいペースで周回を重ねていき、スタートから 3 時間を迎えた頃にはクラス 6 位という位置にいました。
　しかし、久保選手から走行時にマシンが急にストップしたとの無線が・・・。
コース上に止まってしまったため、まずマシンは修復エリアに運ばれ、そこから自力でピットへ帰ってこなければなりません。
メカニックさんたちが修復エリアでまずマシンをチェックします。
原因は燃料ポンプ系のトラブルでした。
原因が判明し、何とかピットへ戻るもそこから部品の交換に入り、このトラブルで約 1 時間のストップを余儀なくされます。
　そして気を取り直してここから追い上げムードで河野選手がコースへ。
しかし、1 時間経たないうちにまたしても燃料系の問題でピットへ戻ってきます。
今度はガソリンを入れる際にタンクの方に問題があり、ガソリンが満タンになっていなかったとのことでした。
6 時間を経過したところで、トラブルで大きくタイムロスした我々は、クラス最下位の 13 位に。
　ガソリンを満タンに入れなおして、自分がコースへ。
24 時間レースの最初のスティントからナイトセッションです。
ニュルブルクリンク 24 時間の際に雨のナイトセッションを経験していたお陰で、視界的な問題はありませんでした。
タイヤが 2 スティント目で、思いのほかリアタイヤが苦しく 100R などの高速コーナーでオーバーステアでした。
その為、このセッションはマシンを暴れさせないように走るのに必死になり、タイムも少しバラついてしまって予想以上に疲れました。

本当は最初のスティントは2スティント連続で行く予定だったのですが、このタイミングで先ほどトラブルの出たガソリンタンクを直し、タイヤも交換するということになり、スケジュール変更で約1時間40分ほど乗ったところでドライバー交代も含めたピットへ。
この後、河野選手がダブルスティントで3時間走り、3時からまた自分の出番です。
　この交代のタイミングでブレーキパッドを交換し、今度は自分もダブルスティントになります。
ちょうど半分の1時間半で給油にこそ一度ピットへ戻りますが、実質の3時間ドライブとなります。
この3時間のスティントはタイヤを交換して出たので、最初のスティントと比べてかなり乗りやすい印象でした。
しかしながら2スティント行く予定でしたので、タイヤを労わりながら、ブレーキとシフトを労わりながらも縁石は使わないようにして、2分0秒台から1秒台ペースを意識して走りました。
このスティントの方がマシンも暴れないで走れているため、最初のスティントよりも暑くなく体力的にも問題ありませんでした。
　ダブルスティントの後半では、もう4時台から空は明るくなってきます。
途中ストレートで朝日が眩しかったのですが、視界的には問題なく対応出来て、同じようなペースを刻みながらトラブルも無く3時間の走行を終えます。
ミッションも全く問題無くシフト操作時に渋い感じも無かったので、その旨をDAISUKE選手に伝えながらナイトセッションを終えて交代します。
結局ナイトセッションだけでチーム最多の144周走っていました。
　その後DAISUKE選手、森山選手、久保選手と順調に交代し、11時40分に自分の最後のスティントを迎えます。
久保選手から交代してコースインすると、シフトアップが異常に硬くなっていました。
それどころか、コカ・コーラコーナーでシフトダウンしようにも4速に入りません。
結局5速と4速がシフトダウンで入れようとすると全く入らなくなってしまっていました。
シフトアップ時も4速と5速は非常に硬くて、労わって走ったとしても残り3時間残っていますし不安しかありませんでした。

無線で状況を伝え、とりあえずシフトアップは本当に丁寧にゆっくり入れていき、シフトダウンは回転だけ合わせて 3 速に飛ばして入れながら、騙し騙し走行していました。
2 分 4 秒ペースでは走れたものの、残り 3 時間は厳しいというチームの判断となり、4 周ほどでピットへ戻りミッション交換へ。
残り 2 時間を切ったところでミッション交換が終わり、河野選手がコースへ。
しかし、今度はパワーが出ない症状が発生してしまいます・・・。
ストレートで ST-5 クラスのマシンよりも遅いとの無線が。
それどころか加速もしなくなってきたという状況になり再びピットへ。
コンピューターの制御系が働いてしまっているのか、原因もはっきりしません。
残り時間も 1 時間を切ったので、悔しいですがコース上で止まってしまってチェッカーまでに修理出来ないとリタイアとなってしまうため、完走するためにもチェッカーだけ受けることに切り替えました。
ラスト 1 周だけ DAISUKE 選手がコースインして、いろいろトラブルが出ましたが、無事に 24 時間のチェッカーを受けることが出来て、完走しました。

決勝結果：11 位（529Laps）

（自己ベストタイム：2’00.452　149Laps）

PIRELLI
Super Takyu
T'S CONCEPT

28

反省

　今回自分の中では予選の失敗が悔やまれます。
手応えが良かっただけに位置取りに失敗して台無しにしてしまい、更にその前後でタイムを出せなかったことが最大の反省点です。
スピードは確実に出てきていると思うので、そのパフォーマンスをしっかりと出せるようにこの失敗を無駄にしないようにしたいと思います。
　決勝は今回予期せぬトラブルが多発したことが残念であり敗因ですが、自分のドライビング面では 3 時間のロングスティントも安定してこなすことが出来て、ミッションを含めてマシンを労わりながら走れたと思います。
また、確実にニュルブルクリンク 24 時間の経験が夜の走行に活かされたと感じています。

最後に

　今回のレースもたくさんのご支援ご声援、有難うございました。
日本では久しぶりの開催となりました 24 時間レース、盛り上がっていましたし、日本のモータースポーツが更に盛り上がるためにも良いレースだと感じています。
　今回は残念ながらトラブルで勝負権を失ってしまいましたが、是非また来年も挑戦したいと感じました。
24 時間という長いレース、改めてチーム一丸となって戦ったという気持ちになりましたし、チームの結束もより強固になったと思います。
　次戦は 7 月 14，15 日に九州のオートポリスで 3 時間レースとなります。
今回の悔しさや反省点を活かし、全力で頑張りますのでどうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2018 年 6 月 11 日
東　徹次郎